

平成 27 年 光遍寺行事予定

カレンダーに記入し、一度でも多く
光遍寺にお参りください！

3月18日(水)~24日(火) 春の彼岸会
彼岸の入り、中日、結岸の三日お勤めします。
午後7時30分~

4月11日(土)、12日(日) 春の永代経(花祭りも行います)
昼座：午後2時~ 夜座：午後7時30分~
【布教使】広陵町 宝林寺 玉井一乗 先生

8月10日(月)、11日(火) お盆の永代経
昼座：午後2時~ 夜座：午後7時30分~
*11日夜座には仏教婦人会による無縁仏のお勤めがあります。
【布教使】奈良市 西蓮寺 藤田哲史 先生

9月20日(日)~26日(土) 秋の彼岸会・天皇会
彼岸の入り、中日、結岸の三日お勤めします。
午後7時30分~
*23日は午後7時より後醍醐天皇陵にて讚仏偈をお勤めします。

9月24日(木)、25日(金) 第38回 光遍寺念仏奉仕団
参加申し込みは後日行います。

10月24日(土)、25日(日) 報恩講
昼座：午後2時~ 夜座：午後7時30分~
*24日昼座後にはお斎(事前申し込み必要)があります。
【布教使】宇陀市 称名寺 三明芳信 先生

12月31日(木)、1月1日(金) 除夜会・修正会
午前0時より梵鐘を撞き始めます。
注) 上記の他に、「法灯の宴」、「門信徒総集会」等の行事が入る可能性があります。

謹賀新年



新年明けましておめでとう
ございます。旧年中は光
遍寺護寺発展のため、ご
力をいただきありがとうございました。本年も何卒よろしく
お願いいたします。
本年も、除夜会・修正会
において、年頭の法話をさせ
ていただきました。要旨は、
「掃除をしましょう！」
というものでした。今更「掃
除をしましょう」と言われて
も：と思われるかもしれま
せんが、もちろん一般的な
掃除のことではなく、「心の
掃除」の話です。

多くのご家庭が、年末に
大掃除をして、気持ちよく
新年を迎えられたことと思
います。丁寧に掃除をする
と、思いもよらない所に汚
れがあることに気づき驚くこ
とがよくあります。「こんな
ところが、こんなにも汚れて
いたのか：」しかし、それは掃
除をして初めて気づくことが
できることです。
私たちの心の汚れも同じ
ではないでしょうか？普段い
ろんなものに埋もれて生活
している中では、汚れなど全
く気になりません。しかし、

整理整頓し、隅々まで掃
き清めることによって、思いも
しれない汚れに遭遇し、その汚
れが気になります。
私たちの心の掃除の仕方は
ただ一つです。仏様にお参り
することです。仏様の前に座
り、仏様の光に照らされる
と、暗闇に光が差し込むよ
うに、今まで見えなかった自
分の心の汚れに気づくことが
できるのです。
どんなに熱心に仏様にお
参りをしても、その心の汚
れを取り除くことはできませ
ん。死ぬ瞬間まで、その汚
れ

と共に生きなければなら
ない私たちだからです。でも、
その汚れに気づくことができ
れば、生活は大きく変わ
ります。さらに、その汚れを嫌
わず、そのまんまの私を抱き
止めてくださる阿彌陀様の
存在を喜び、ただ感謝の日
暮しができるのです。
放っておけば、勝手にゴミ
に埋もれる私たちです。で
きるだけ頻りに心の掃除を
することが大切です。本年
度の目標を左に掲げます。
共に良い一年となるようし
っかり掃除をしましょう！

光遍寺新聞



第 25 号

発行所

〒638-0315
奈良県吉野郡
天川村沢原141
浄土真宗
本願寺派
仏照山
光遍寺

電話番号
0747-63-0638
ホームページ
<http://www.kouhenji.org>

今月の法語

出会わねばならない
ただひとりの人がいる
それは私自身
(廣瀬 晃)

光遍寺門信徒の目標

毎日 仏壇にお参り
月一 光遍寺にお参り
年一 本願寺にお参り

第二十七回 光遍寺念仏奉仕団

平成二十六年十月二十八日、二十九日の二日間にあたり、本願寺の清掃奉仕を行う念仏奉仕団に参加しました。光遍寺としては三十七回目の参加であり、この回数には全国的に見ても誇るべきものです。

最終日には、長年にわたって奉仕団に参加された方々の表彰が行われました。光遍寺からは、二十五回参加された沖金の堀井茂子様と、十回参加された沢原の



念仏奉仕団参加者の皆様

片岡絹代様が表彰されました(左写真下)。

また、昨年(平成二十六年)六月にご門主が変わられてから、初めての奉仕団でした(左写真上、中央が大谷光淳(こうじゆん)門主)。本年度も、三十八回目となる念仏奉仕団に九月二十四日(木)、二十五日(金)の日程で参加する予定です。村内外を問わず、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。



25回表彰を受けられる堀井茂子様



10回表彰を受けられる片岡絹代様

門信徒広場

阿弥ちゃん!!

仏様の足は偏平足です

それは仏様の今この瞬間を大切にしたい

地についた足のついた毎日を送りたい

私たちが仏様を見ならい

カーテンで遊ぶな!

仏足石(お釈迦様の足跡を刻んだ石)

表しています

右の文章は、法事などの最後に拝読する「御文章」の中の「聖人一流の章」の意識です。最も有名(よく拝読する)ですので、「聖人一流のご勸化の趣は…」と暗唱できる方もいらっしゃるかもしれません。浄土真宗の真髓を端的に表して下さっていますので、改めてじっくり読み味わってください。

「御文章」とは、本願寺第8代門主の蓮如上人が布教のために、手紙形式で書かれた文章のことです。蓮如上人の孫である圓如上人が、その中から80通を選び、5冊(帖)にまとめられたものが、現代に伝わっています。

さて、ここで問題です。この「聖人一流の章」は「御文章」の何冊(帖)目の何番目(通)におさめられているでしょうか? 次のの中から正解を一つ選んでください。

- ① 1帖目の第3通
- ② 3帖目の第10通
- ③ 5帖目の第1通
- ④ 5帖目の第10通
- ⑤ 5帖目の第16通

分かった方は、光遍寺までご連絡ください。先着数名様に記念品をお渡します。

〈ヒント〉各家庭の仏壇の「御文章」には2種類あります。5帖が一冊にまとまっているものと、5帖目だけが独立しているものです。後者の方が多くに思いますが、前から順番に数えてください。

親鸞聖人によって開かれた浄土真宗でお勧めくださる趣旨は、信心を根本とされています。そのわけは、さまざまな祈願・祈禱などの修行をやめて、ただ一心に阿弥陀如来におまかせすると、私たちのお思いや言葉を越えた阿弥陀如来の願いの働きによって、仏の方から私たちが浄土に生まれること(往生)を定めてくださいます。そのように往生が決まることを曇鸞大師は「阿弥陀如来におまかせする」という信の一念によって、まちがいはなく往生し仏に成ることが定まった正定聚(しようじようじゆ)の位に入る」と解説されています。そしてそのうえでお称えする念仏は、如来が往生を定めてくださった御恩に報い感謝する念仏と心得ねばなりません。まことに畏(おそ)れ多く尊いことでもあります。